

令和元年度宮崎市地元とつながる人材育成支援事業 【報告資料】

宮崎商工会議所

課題

宮崎市の課題

- わが国の総人口は、平成20年（2008年）を境に人口が減少しており、今後も、少子化の進展により、過去に類を見ない勢いで人口減少が加速し、平成60年（2048年）には1億人を割り込むことが予想されている。
- 本市の総人口は、平成25年（2013年）をピークに減少に転じ、平成27年（2015年）には、死亡数が出生数を上回る「自然減」に転化するなど、本格的な人口減少社会に入りつつある。
- また、転出数が転入数を上回る「社会減」は、進学や就職を契機とする15歳から24歳までの若い世代で顕著となっていることから、教育機関と地域との関わりや就職時のマッチングをはじめ、若い世代が地域に愛着や関心をもち、地元就職しやすい仕組みをつくっていくことが重要になっている。

学生の地元志向を高め、若い世代の地元への定着と流入を促進することが求められる

現状

宮崎商工会議所の取組

- 平成30年度より若者の地元定着率の向上を目的にイノベーション教育セミナーを実施
 - 日時：平成31年1月16日（水）
 - 対象：第一高等学校国際マルチメディア科200名
 - 講師：教育デザイナー 一般社団法人i.club代表理事 小川 悠氏
 - アンケート結果
 - イノベーションについて興味を持った：81.5%
 - 学んだことを今後活かせる：84.5%



イノベーション教育が未来を創る高校生にとって有益であることを確認、継続実施を検討

当事業における用語の定義

イノベーション

- ・ ミライをつくるアイデアを出すこと
 - イノベーション = 起こしたい変化（目的） × アイデア（手段）

イノベーション教育

- ・ ミライをつくるアイデアを出すための作法と心構えを学び挑戦する教育
 - 自分の「こうありたい」から生まれる問いを立てるための教育

探究の時間

目的

- 教科や科目等の枠を超えた課題に取り組み、リアルな社会における問題を解決する能力を身につける

プロセス

- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」
- 特に自ら問いを立てる力が求められる

備考

- 2022 年度から年次進行で実施される次期学習指導要領のキーワードの一つ
- 2019 年 4 月以降に入学した生徒から先行実施されているが、各高校の取り組み状況はさまざま

実施事項

目的

- 地域でイノベーションを起こすための作法・心構え・動機づけを学ぶ
「イノベーション教育」と「地域資源の活用事例」を知ることにより、地域資源を活用したアイデアを生み出す力と地域への愛着や誇りをもつ機会を提供する。
 - ミライを変えるアイデアの作り方や地域資源を魅力的に活用している事業者の事例を学ぶことにより、地域資源を活用したアイデアを作り出すことのできる人材を育成する。
 - 地域ならではの新しい価値を創造し、就業できることを周知することで若者の地元定着率を向上させる。
- 教職員向けセミナーを通じて大学・短期大学・高等学校にそのノウハウや手段等を蓄積し、事業実施後の自立性・継続性を高める。
 - 上記の様な人材を継続して輩出できる体制を作る。
 - 特に「探究の時間」におけるイノベーション教育プログラムの普及を目指す

イノベーション教育の普及のため、主役である学生と生徒を教える教職員向けセミナーを実施

具体的内容①

高校生・大学生向けセミナー

『これからの時代のイノベーション教育』

『地域資源を活かす取り組みについて』

『座談会 ～ミライをつくる。ジブンがつくる。～』

【概要】

小川氏よりミライをつくるアイデアを出すための作法・心構えを学び挑戦する必要性と具体的な作法・心構えについて説明を行った。また地域資源を活用した事業を行っている加藤氏、中野氏より様々な取組や仕事に対する思いを語っていただいた。

講師 教育デザイナー 一般社団法人i.club代表理事 **小川 悠** 氏



横浜生まれ。東京大学工学系研究科修士課程修了。東日本大震災後の復興活動の中で、地域の未来を担う世代と、いまを担う世代がともに未来をつくる大切さを実感。東京大学 i.schoolや、世界の様々なデザインスクールにおける学びの体験を生かし、未来をつくるアイデアを出す思考法をもつための教育プログラム（イノベーション教育）を開発・提供するi.clubを立ち上げる。現在は、全国で教育プログラムを展開。「酒粕 ミルクスイーツ」や「ほしいもグラノーラ」など、教育プログラムから生まれたアイデアの商品開発のプロデュースも行う。

日時

令和元年11月30日（土）14:00~16:00

会場

ATOMica（アトミカ）
宮崎市橘通西3-10-32
ボンベルタ橘東館8F

参加人数

13名

(株)加藤えのき 代表取締役 **加藤 修一郎** 氏



年間5千トンを出荷する西日本最大級のエノキ生産会社を運営。その傍ら、本業の成功体験と故郷への愛着を生かし、道の駅高岡「ビタミン館」のリニューアルを実施。地域資源を活用した取り組みが注目を集めている。

(株)インパクトワークス 代表取締役 **中野 崇** 氏

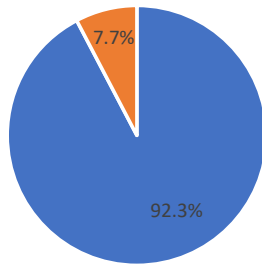


宮崎県において数少ないエンターテインメント事業者/(株)インパクトワークスを運営。神話と伝説のふるさとである本県を舞台に活躍する、地域密着型ご当地ヒーロー「天尊降臨ヒムカイザー」の活動を通じ、神話伝承に貢献している。



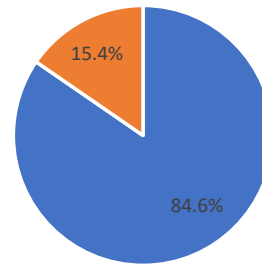
結果①：高校生・大学生向けセミナー（令和元年11月30日開催）

Q1.参加してよかった



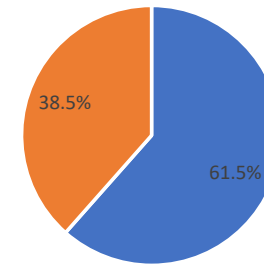
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q3.イノベーション教育から得られる学びの可能性を感じた



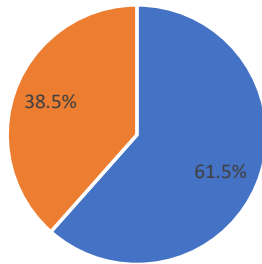
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q5.イノベーション教育を学びたいと思うようになった



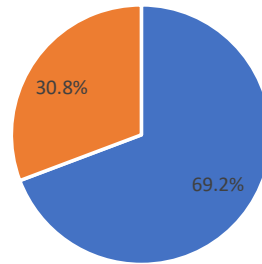
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q2.イノベーション教育の理解が深まった



■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q4.イノベーション教育に関するイベントに今後も参加したい



■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

【アンケート抜粋】

- とても楽しそうに、自分たちがしている仕事について語っていて、自分も自分のしていることをキラキラと楽しそうに話せるように日々を全力で楽しみ、努力していこうと思えました！！ありがとうございました。
- 自分の将来について考える機会にもなったし、学校の”探究”にもこれから積極的に取り組みたいと思いました！充実した時間になりました。ありがとうございました！！
- 私はもともとイノベーションが好きで関係するイベントには参加するようにしていたのですが、改めて社会で活躍する人の考えや未来の作り方を聞き、人々の生活を作るイノベーションの楽しさを再確認しました。ありがとうございました。

日々を全力で楽しみ、未来に向けて挑戦する意欲を持つ学生が増える結果となった

結果①：高校生・大学生向けセミナー（令和元年11月30日開催）

事業前

現在、就職先として考えている場所はどこですか。

		回答者のうち、宮崎市内、宮崎県内出身者の数	回答者のうち、宮崎県外出身者の数
①宮崎市内	2	2	
②宮崎県内	4	3	1
③宮崎県外	6	6	
④未定	1	1	
合計	13	12	1

事業後

現在、就職先として考えている場所はどこですか。

		回答者のうち、宮崎市内、宮崎県内出身者の数	回答者のうち、宮崎県外出身者の数
①宮崎市内	1	1	
②宮崎県内	6	5	1
③宮崎県外	3	3	
④未定	3	3	
合計	13	12	1

イノベーション教育プログラムが「若者の地域離れ」に一定の効果があることがうかがえる

具体的内容②

教職員・一般向けセミナー

『地域発イノベーション教育プログラムセミナー』

- 地域が「イノベーション」を起こすキッカケ
- イノベーション教育プログラムとは
- 地元学生からはじまるイノベーションプロジェクト

【概要】

「地域探究の時間」にイノベーション教育の手法を取り入れる有効性と他地域における地元学生によるイノベーションプロジェクト実践例及び効果の説明を行った。

日時

令和元年12月1日（日）14:00~16:00

会場

ATOMica（アトミカ）
宮崎市橘通西3-10-32
ボンベルタ橘東館8F

参加人数

19名

講師 教育デザイナー 一般社団法人i.club代表理事 **小川 悠** 氏

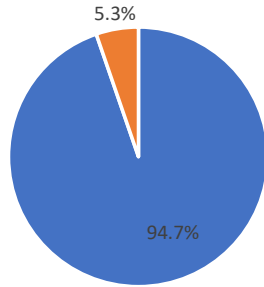


横浜生まれ。東京大学工学系研究科修士課程修了。東日本大震災後の復興活動の中で、地域の未来を担う世代と、いまを担う世代がともに未来をつくる大切さを実感。東京大学 i.schoolや、世界の様々なデザインスクールにおける学びの体験を生かし、未来をつくるアイデアを出す思考法をもつための教育プログラム（イノベーション教育）を開発・提供するi.clubを立ち上げる。現在は、全国で教育プログラムを展開。「酒粕 ミルクスイーツ」や「ほしいもグラノーラ」など、教育プログラムから生まれたアイデアの商品開発のプロデュースも行う。



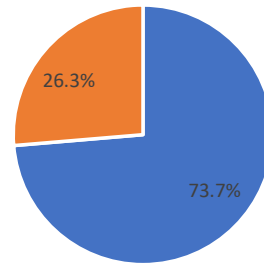
結果②：教職員・一般向けセミナー（令和元年12月1日開催）

Q1.参加してよかった



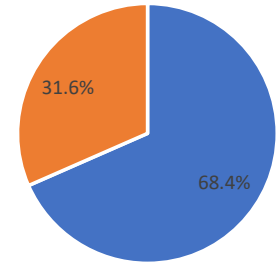
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q3.イノベーション教育から得られる学びの可能性を感じた



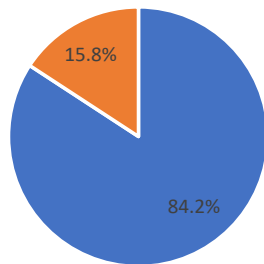
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q5.イノベーション教育を提供したいと思うようになった



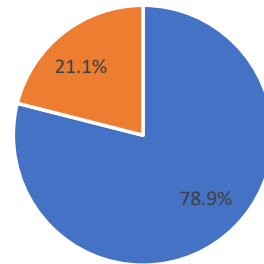
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q2.イノベーション教育の理解が深まった



■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

Q4.イノベーション教育に関するイベントに今後も参加したい



■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない
■そう思わない ■全くそう思わない

【アンケート抜粋】

- 教育者向けのイベントと聞いていたが、教える側も知識がなければ教えられない。本質から教えてくれる内容だった。
- 今後子供たちに必要な力をどのようにして付けるかのヒントをいただいたように思います。
- イノベーションは地方だからこそ取り組めることがあり、またPRポイントになるのではないかと思います。
- 「何がしたいかわからない」という子にとってのイノベーション教育の大切さがわかった。
- 探究活動の設計にも作法が必要であるということを宮崎の先生方にもっと認識してもらえたらと思います。

イノベーション教育を提供したいというニーズがあることが改めて判明

具体的内容③

宮崎商業高校教職員向けセミナー

『イノベーション教育のデザインと実践』

- ・ イノベーション教育プログラムとは
- ・ イノベーション教育と地域探究学習について

【概要】

次年度以降の「地域探究の時間」にイノベーション教育の手法を取り入れる実践プランについて説明を行った。

日時

令和2年2月13日（木）15:40~16:30

会場

宮崎県立宮崎商業高校
宮崎市和知川原3丁目2-4

参加人数

80名

講師 教育デザイナー 一般社団法人i.club代表理事 **小川 悠** 氏

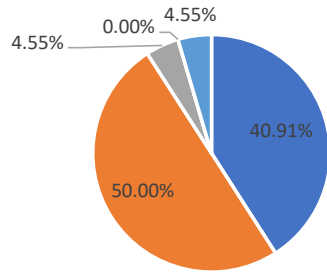


横浜生まれ。東京大学工学系研究科修士課程修了。東日本大震災後の復興活動の中で、地域の未来を担う世代と、いまを担う世代がともに未来をつくる大切さを実感。東京大学i.schoolや、世界の様々なデザインスクールにおける学びの体験を生かし、未来をつくるアイデアを出す思考法をもつための教育プログラム（イノベーション教育）を開発・提供するi.clubを立ち上げる。現在は、全国で教育プログラムを展開。「酒粕 ミルクスイーツ」や「ほしいもグラノーラ」など、教育プログラムから生まれたアイデアの商品開発のプロデュースも行う。



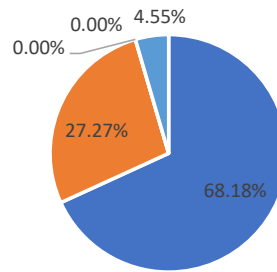
結果③：宮崎商業高校教職員向けセミナー（令和2年2月13日開催）

Q1.講話は理解できた



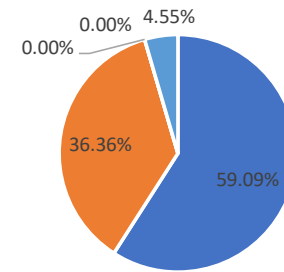
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q3.講話を受けて学びがあった



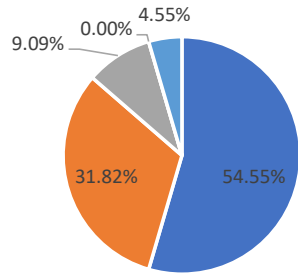
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q5.実際にイノベーション教育を受けてみたい



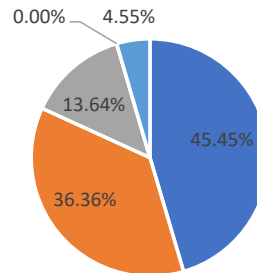
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q2.講話を受けて楽しかった



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q4.講話での学びは将来に活かすことが出来る



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

【アンケート抜粋】

- 生徒と同じ目線で同じように苦勞し、向き合っていけるようにしていきたい。
- 生徒に教えるスタンスではなく、生徒が問題意識を高められる授業や場作りが大事だと感じた。
- 生徒の持っているものを引き出すことから始められないかと思えます。
- 答えのない問いは確かに不安であるが、自分も一緒にやっていたらと思った。
- 探求の授業ですが、通常の授業のあり方をどう変えようか日々迷いながら実践しているのですが、この研修を受けて思い切って次年度からガラッとやり方を変えてみようかなと思いました。

当校におけるイノベーション教育実施の自立性・継続性を高める結果となった

具体的内容【参考】

宮崎商業高校商業科1年生向けセミナー

『これからの時代のイノベーション教育』

- ・ イノベーション教育と探究活動について

日時

令和2年2月13日（木）13:00~13:50

会場

宮崎県立宮崎商業高校
宮崎市和知川原3丁目2-4

参加人数

217名

【概要】

ミライをつくるアイデアを出すための作法・心構えを学び挑戦する必要性と具体的な作法・心構えについて説明を行った。

講師 教育デザイナー 一般社団法人i.club代表理事 **小川 悠** 氏

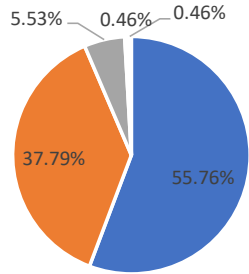


横浜生まれ。東京大学工学系研究科修士課程修了。東日本大震災後の復興活動の中で、地域の未来を担う世代と、いまを担う世代がともに未来をつくる大切さを実感。東京大学 i.schoolや、世界の様々なデザインスクールにおける学びの体験を生かし、未来をつくるアイデアを出す思考法をもつための教育プログラム（イノベーション教育）を開発・提供するi.clubを立ち上げる。現在は、全国で教育プログラムを展開。「酒粕 ミルクスイーツ」や「ほしいもグラノーラ」など、教育プログラムから生まれたアイデアの商品開発のプロデュースも行う。



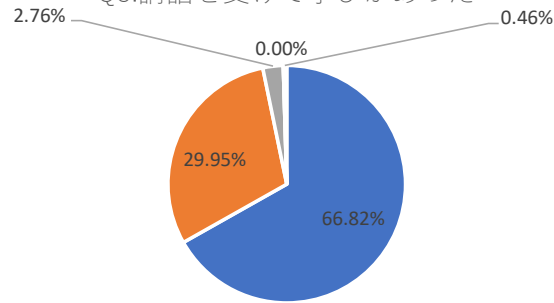
参考：宮崎商業高校商業科1年生向けセミナー（令和2年2月13日開催）

Q1. 講話は理解できた



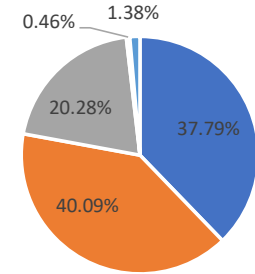
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q3. 講話を受けて学びがあった



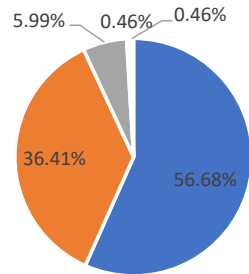
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q5. 実際にイノベーション教育を受けてみたい



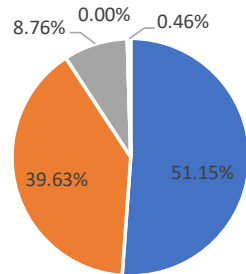
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q2. 講話を受けて楽しかった



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

Q4. 講話での学びは将来に活かすことが出来る



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない

【アンケート抜粋】

- 講話を聞いて作法を知って、自分でもミライをつくるアイデアを出せるのではないかと考えることが出来ました。
- 講話を受ける前は才能にこだわっていて、やってみようと思いませんでしたが、作法を学び心構えをすることが大切だということを講話を受け考えを変えることが出来ました。
- 未来を背負う自分たちがもっと学ぶことに積極的になっていかないといけないと思うので、自分もできることからやってみようと思いました。
- 次は自分たちが未来を変える番ですが、どのように考えれば良かったのかだったので良かったです。

次年度以降、学生・教職員共に「地域探究の時間」を通じてイノベーション教育を実施していく土壌が整う結果となった

まとめ

① 高校生・大学生向けイノベーション教育セミナー

- 市内在住の高校生・大学生を対象に行った講演を通じ「イノベーション＝ミライをつくるアイデアを出すこと」「ミライはワクワクとモヤモヤの中にある」「点と点はつながって自分に返っている。その時々を真剣に。」という講師陣のメッセージを多くの学生が受け取った。
- 更に地元宮崎で自分のしている仕事を楽しそうに話している大人と出会うことで、日々を全力で楽しみ、未来に向けて挑戦する意欲を持つ学生が増える結果となった。
- また6名の学生が県外企業への就職を希望していたが、セミナー終了後、うち1名が県内企業への就職を検討し、2名の学生が県外企業以外の選択肢を検討中となり、今回の取組が「若者の地域離れ」に一定の効果があることがうかがえる結果となった。

② 教職員・一般向けイノベーション教育プログラムセミナー

- 「地域探究の時間」のカリキュラム作成に教職員が悩んでいる現状もあり、反響も非常に大きく、アンケートの結果からも教職員及び一般参加者にとってイノベーション教育は有益であり、イノベーション教育を提供したいというニーズがあることが改めて判明した。

まとめ

③教職員向けイノベーション教育セミナー（宮崎商業高校）

- ②の結果を踏まえ、当事業実施後の自立性・継続性を高める効果を高めることを目的に、宮崎商業高校の教職員80名に対し、『イノベーション教育のデザインと実践』のテーマで、次年度以降の「地域探究の時間」にイノベーション教育の手法を取り入れる実践プランについて説明を行った。
- アンケート結果からも今後の授業に活かせるという意見が8割を超え、当校におけるイノベーション教育を実施する自立性・継続性を高める結果となった。

（参考）宮崎商業高校生向けイノベーション教育セミナー

- ③を実施するにあたり、次年度以降の「地域探究の時間」の進め方について教職員の要望により、急遽、商業科1年生217名向けに「ミライをつくる。ジブンがつくる。」のテーマで特別講演を行った。
- その結果、90.8%の学生が当内容を将来に活かすことができ、77.9%がイノベーション教育を受けてみたいという結果となり、次年度以降、学生・教職員共に「地域探究の時間」を通じてイノベーション教育を実施していく土壌が整う結果となった。

次年度以降の取組

「イノベーション教育事業」の推進（継続）

- 今後の地域の担い手である高校生を対象にした「イノベーション教育事業」を通じて、地元の魅力再確認や創業機運醸成など地域発イノベーションにより「若者の地域離れ」や「地域産業の衰退」の解決を目指す。
- 今年度までのイノベーション教育セミナー（学生及び教職員向け）に加え、具体的な探究活動を通じたイノベーション教育プログラムの推進を行う。



次年度以降も引き続き、高校及び産業界を巻き込む形でのイノベーション教育を実施していく